

- 【出席率】 会員58名中45名
【先々週の出席率】 87.50%
【ゲスト】 ライラ研修生
富永草野病院 田巻 恵様
- 【ビジター】
三条北RCより 中條耕二君
三条RCより 斎藤弘文君
- 【先週のメイクアップ】
9/29 津南RCへ 馬場信彦君 長谷川晴生君
10/1 長岡東RCへ 馬場信彦君 菫澤喜一郎君
10/2 越後春日山RCへ
馬場信彦君 佐藤嘉男君
10/4 米山奨学セミナーへ
馬場信彦君 佐藤秀夫君 星野健司君
佐々木常行君
10/5 地区大会記念ゴルフ大会へ
菫澤喜一郎君 丸田肇一君 嘉瀬 修君
木原 崇君 佐藤嘉男君



会長挨拶

吉井 正孝 会長



こんにちは。今日は三条北クラブから中條さん、三条クラブから斎藤さん、そして、去る9月27・28日の両日、新潟で開催されました「ライラ研修」にご参加いただきました草野医院の2名のスタッフの内、本日は田巻 恵さんにおいて頂きました。のち程ご報告頂きます。また両日、お二人の引率を兼ねてご参加いただきました熊倉委員長には、大変ご苦労様でした。併せて、この事業にスタッフを派遣頂きました草野先生に厚くお礼を申し上げます。そしてゲストのもう一人、米山奨学生のタキ君、ようこそおいでくださいました。

いつものように本日も、「今日の暦」から始めます。今日は世界で初めて「トーキー映画が公開された日」だそうです。ところは、アメリカ ニューヨーク。1927年（昭和2年）、ただその頃のトーキー映画は、歌といくつかの台詞部分だけがトーキー化されたもので、言わば「部分トーキー」・・・。それでも、記録的な興行収入をあげたとのことでした。

さて皆様ご承知の通り、当三条南クラブは今年の6月14日、めでたく40周年を迎えました。これにあやかっって、今日は私たち夫婦の「結婚40周年」の話をさせていただきます。

先月9月17日の私の誕生日の夜、子どもたち夫婦が集って、ささやかな私たちの誕生パーティを開いてくれました。私と女房は同じ9月生まれ「猿と犬」



国際ロータリー会長 李 東 建 [韓 国]
第2560地区ガバナー 馬 場 信 彦 [三 条 南]
第4分区AG 古 井 辰 禧 [吉 田]
会 長 吉 井 正 孝
幹 事 鈴 木 圀 彦
S A A 野 中 悟

事務局
〒955-8666 三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店内
☎0256-35-3477 Fax 0256-32-7095
E-male info@sanjo-minami.jp
URL <http://www.sanjo-minami.jp>

佐藤（栄）君 昨日は、丸田さんを始め地区大会記念ゴルフコンペの委員の皆様大変ご苦勞様でした。
熊倉君 本日はライラ研修報告です。研修生の田巻さん、宜しくお願いします。
渡邊（久）君 先週、千葉の旧友の病氣見舞いに出かけ、大変喜ばれました。快復を祈るばかりです。
西巻君 先日土曜日は三信本店グリーンクラブでお世話になりました。BOXに協力
渡邊（光）君、平松君、銅冶君、坪井君、田中（悌）君、滝口君、坂井（範）君、大溪君
BOXに協力致します。
飯山君 BOX担当の飯山です。本日はご協力有難うございました。

新世代のための月間

第8回 RYLA 研修

9月27日（土）・28日（日） 会場：学生総合プラザ「STEP」
テーマ：「生きる～命」 —あなたは生きていく上で、
大切なものは何か知っていますか—

「ライラ研修を通して」

ライラ研修生 田巻 恵 様
(富永草野病院 総務課)



修了証書授与



今回のライラ研修は、「生きる」をテーマに自己分析や自己の生き方を確認するものでした。

オリンピックメダリストの堀井学氏など3名の講師の話を、自分はどうだろう？ 自分ならどうするか な？と考えながら聞いていました。今の自分を知り、今後の生き方について考えさせられる研修でした。

堀井さんの講演の中で印象的だったのは、「挑戦した先に本当にそのことを手助けしてくれる人に出会えるチャンスがある、財産を手に入れることができる」とおっしゃっていました。夢を達成した方

だからこそとても説得力のある言葉で、ガツンとくる言葉でした。

講演者の方は皆さんとても大きな夢・ビジョンを持ち、その実現をイメージする、ということをしていました。講演を聴きながら、自分の夢は？と聞いてみても、小さな願望はあれども、なかなか出てきませんでした。夢を持っていないというのは、とてもつまらないことだし、自分を成長させるチャンスを逃しているのだと改めて気づかされました。

そして、夢・目標の達成はイメージを持つことが大切であるということ学びました。人間の行動は、「意思く 習慣く イメージ」となっており、習慣を変えるのは意思ではなくイメージであり、成長とは習慣を変えることだと講演されました。今後は、こうなりたいという自分の理想の人のイメージを持つことが必要だと思いました。

また、今回は指導者として成長するための研修でもありました。堀井氏の講演で、コーチや監督からの言葉で頑張ることができた、言葉には力があるという話を聞いて、現在、職場で中堅者の立場である自分が今後後輩にどのように指導していけば良いのか参考になりました。人の苦手な部分を指摘しつつ、良い所を伸ばせるように、褒めて、相手を認めながらやる気を高めるように指導できるようになりたいです。

最後に他にも感じたこと・学んだことは沢山ありますが、今回の研修を通して、今自分が存在しているのは多くの人の助けや関わりがあるのだと、当たり前なことがとても幸せであったということに改めて気づかされました。自分を見つめ直す良い機会であったと思います。



今回は“生きる～命”をテーマに 9/27,28 の土日、二日間の研修を、新潟の鳥屋野潟近く、学生総合プラザSTEPにて行いました。

初日はオリンピック銅メダリストの堀井学氏の講演とサクセス新潟の小杉氏による、自己分析の時間。二日目は、チベット出身の音楽家、バイマー・ヤンジン氏の講演とまとめとして、自己の生き方を確認する時間の研修を受けました。

昨年までは自然の家等での二泊三日の研修でしたが、今回は趣向を変えて少し贅沢な施設での短期間の研修となりました。研修生は富永草野病院さんより、田巻恵さん、皆川幸喜さんのお二人に参加いただきました。

最初は皆さん硬い表情でしたが、時間が経つにつれて、グループの皆さんとも少しずつ打ち解け、一日目の夜の懇親会では楽しく交流できたようでした。特に二日目のチベットのヤンジンさんの話では、いかに日本の教育や生活の程度が幸せすぎるのかを痛感させられた内容でした。当然と思われる教育環境や生活環境が、場所や時代が変わるとこうも違うのかと、研修生もこの現状の違いをしみじみと感じていたようです。

いろいろな研修に参加して、わからなかったことがわかるようになったことも多いのですが、わからないことがもっとわからなくなったこともありました。それは懇親会の料理が大変少なく、こぞってテーブルに料理を持ってくる光景を見て、研修生のためにとロータリアンが気を使ったのでしょうか、研修のテーマとのギャップとその行動に戸惑ってしまいました。担当されたクラブのご苦労には失礼となりますが、少ない量を分け合うことが、とっさにできなかったことが残念でした。これは私自身への今後の課題です。ありがとうございました。

馬場ガバナー月信をお届け致します



月信

国際ロータリー第2560地区

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2560

2008-2009年度 10月号 Vol.4



ガバナーメッセージ

10月は、「職業奉仕月間」・「米山奨学月間」です。



今回は最初に「職業奉仕月間」について、皆さんと一緒に考えて見たいと思います。今年1月に、私は、サンディエゴで開催の国際協議会に出席してきました。第9回本会議の講演者は日本の渡辺好政 RI 理事で、「職業奉仕の重要性について」を話されました。

渡辺理事は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの言葉である「社会に役立つ人間になる方法はいろいろありますが、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります」を紹介され、職業奉仕の重要性について語り始められました。

それは、ロータリーを1本の樹に例えての、職業奉仕の重要性でした。

1本の樹の『根』はクラブ奉仕であり、『幹』が文字通りロータリーの根幹である職業奉仕、『枝と葉』は社会奉仕、国際奉仕、『花』はロータリー財団となり、それぞれに『実』を結びます。

1905年、ポール・ハリスによって創始された最初のクラブは、親睦・助けあいから始まりました。ロータリーの樹に、水と栄養を送る『根』は、『クラブ奉仕』であります。

このようにロータリーの樹の構造について説明されました。

ロータリーの職業奉仕は難解で、ロータリーの拡大・会員増強・会員維持に妨げになっているという意見があります。日本のみならず世界中で、自己の利益のみを目標としたために、いろんな不祥事が頻発しています。自分自身の職業が、他人のために行う事業であるという認識であれば、ロータリーの職業

奉仕が理念として理解できるのではないのでしょうか。ポール・ハリスは、『事業の倫理水準が理想に近づいている場所で、ロータリーが最も栄えることは、喜ばしいことではないのでしょうか』と、職業奉仕の重要性を提起してみました。ロータリアンが職業倫理の高揚を掲げ、さらに、ロータリーの『夢をかたちに』していきましょう。

また、今月は「米山奨学月間」でもあります。先日開催の、地区米山奨学委員会（箕輪光泰委員長）主管の、地区米山奨学生親睦交流会に私も喜んで参加してきました。尚、参加者は、奨学生 18 名、カウンセラー 18 名、米山委員会関係者 8 名でした。バス 1 台で新潟駅から出発、まず、越後一ノ宮弥彦神社、続いて良寛が過ごされた清貧の五合庵、昼食は寺泊での海鮮お弁当でにぎやかに過ごしました。私の前の席には偶然 2 人の奨学生がいて、ミーちゃん、アンちゃんという愛称も教えてもらいました。そして、カーブドッチで買い物したり、お茶したりして、新潟駅で解散になりました。少し雨が降りましたが、若い奨学生と同行のため、かなりきつい 1 日になりました。箕輪委員長はじめ委員の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。

ロータリーの米山記念奨学事業は、日本のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給して、支援する国際奨学事業です。1952 年、平和を愛し、青少年に手をさしのべた“日本ロータリーの父”米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として、東京ロータリークラブが始めたものです。やがて、日本のロータリークラブの共同事業として発展し、1967 年に（財）ロータリー米山記念奨学会が設立され、56 年の歴史を持ち、世界に類を見ない日本独自の多地区合同奉仕活動です。事業の使命は、将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することにあります。年間の奨学生採用数は、およそ 800 人、事業費は 14.4 億円（2007 年度決算）で、日本最大の奨学事業となっています。これまでに支援してきた奨学生数は、累計で 14,500 人（2008 年 4 月現在）。世界の 113 の国から奨学生を迎えています。渡辺年度の米山記念奨学会寄付について会員 1 人当たりの実績は、19,390 円でした。今年は、17,500 円以上を数値目標にしています。より多くの奨学生を迎えることの出来ますよう、ご協力をお願い致します。



職業奉仕委員長 メッセージ

職業奉仕委員長のメッセージ

職業奉仕委員長 山崎 勲（三条北 RC）



馬場年度の職業奉仕委員長として、今年度の取り組みとして三名の委員全員で「職業奉仕」というものに向かい合い、その精神を広く普及していく決意です。職業奉仕の声明には、職業奉仕の理想に本来込められているものとして、以下の三つの内容が記されています。

- ① あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には、雇い主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の 知己への公正な取り扱いも含まれる。
- ② 自己の職業やロータリアンの携わる職業だけでなく、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること。
- ③ 自己の職業上の手腕を社会問題やニーズに役立てること。

これらはすべて、職業を持つ全ての人間が持つ「理念」であると考えます。日々葛藤の中で生きている人間だからこそ、持ち続けることが非常に困難な「理想」に留まっているのではないのでしょうか。

今年は赤福の賞味期限の偽装から始まって、中国製の餃子事件、すぐ先日には事故米流通の事件が発覚して国内が大騒ぎをしています。これらを含め企業経営者の、コンプライアンス、企業意識向上にロータリアンとして、機会があるたびに組み込んで行くべきだと考えております。

職業奉仕委員会としてはこれらの問題も含め、企業コンプライアンスに対して各クラブでどのような取り組みがなされているか、アンケート調査を行うべく準備中です。宜しくご協力をお願いいたします。

米山奨学制度をより理解する月間として

米山奨学委員長 箕輪 光泰 (新潟中央 RC)



日本で学ぶ外国人留学生に対し、ロータリアンからの寄付金を財源として奨学金を支給し将来、日本と世界を結ぶ架け橋となって、ロータリー精神の良き理解者となる人材を育てる事を目的として支援しております。

この制度は日本ロータリーの多地区合同奉仕活動であり、民間最大の奨学財団であります。2008年4月迄のまとめとして113ヶ国、14,500人の留学生を支援してきました。

また、奨学金による経済援助だけでなく、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて、ロータリーとの深い交流と精神的ケアを重視しているのが特長です。

奨学生一人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるように配慮しています。

今年度は16ヶ国、25名の学生に奨学金を支給しております。

 米山奨学委員会だより

米山親睦交流会を終えて

奨学生・学友担当 兵藤 邦広 (新潟南 RC)

去る8月30日(土)米山奨学生とロータリアンとの親睦交流会を開催致しました。当日はご多用中にも拘らず、馬場ガバナー、佐藤地区副幹事、詹学友会々長もご参加を頂き、奨学生17名、カウンセラー等ロータリアン24名の総勢41名で有意義で楽しい一日を過ごす事ができました。

当日はバスで新潟駅を10時に出発し弥彦神社、国上山・五合庵、そして、寺泊では新鮮な海の幸の昼食を頂き、シーサイドラインを通りカーブドッチワイナリーの見学をして参りました。心配していた天候も小雨程度で済み安堵しましたが、ただ蒸し暑い中での弥彦、五合庵巡りは、思いの外汗だくの散策となりました。

ほんの短い実質半日のバス旅行ではありましたが、国上山に吹き上げる涼風に歓喜の声を上げたり、寺泊での食事の海鮮汁に満面笑顔の奨学生との他愛無い言葉の一言々々、一瞬々々、濃厚で貴重な交流の機会を得た様に思います。世話クラブのロータリアン以外には米山奨学生との関わりもほとんどないかもしれませんが、まずは、世話クラブのロータリアンの皆様には是非共、奨学生との小さな交流を沢山作って頂きたいと思います。挨拶の一声でも良いと思います。それが即ち「米山奨学制度」の礎となる事と確信します。

改めまして、馬場ガバナー始め参加者皆様様に心より感謝を申し上げます。

